

日刊建設青森

2018年（平成30年）
10月11日（木曜日）

技術者と高校生が意見交換

と県建設業協会
と県建設業協会
イメージ向上で入職促進を



若手技術者の話に笑顔を見せる高校生

県監理課と一般社団法人・青森県建設業協会（鹿内雄二会長）は9日、十和田市の富士屋グラウンドホールで高校生と地元

建設企業で働く技術者との意見交換会を開催し、参加した県立十和田工業高等学校建築科1年生35人に地元建設業で働くこ

との魅力を伝えた。

この取り組みは、建設業への理解増進と若年者の入職促進、建設業のイメージアップを図ることを目的に実施しているもので、今年で5年目5回目の開催となる。

意見交換会には、地元建設企業で働く同校OBを含む若手技術者5人が参加。「建設業に抱くイメージ」などをテーマに、約1時間にわたり高校生が描く建設業のイメージと、実際に働いてみてわかる建設業の実情について意見を交わした。

若手技術者は、就職先

として建設業を選んだきっかけや、現在携わっている現場の仕事の説明するとともに、「高校生のうちに資格取得に必要な勉強はしておいた方が良い」などとアドバイスした。

意見交換を終えた高校生からは、「将来のイメージが湧いた」「現場に対するイメージが変わった」などの感想が聞かれ、若手技術者を代表してあいさつに立った工組の村越将人氏が「今日の意見交換会で建設業の良い部分が伝わってうれしかった。将来はぜひ建設業に就職していただければと思います」と心えた。

また、生徒らは意見交換会に先立ち、十和田市役所新庁舎や、八戸市内スケート場の現場を見学し、施工担当者の説明を聞きながら、大規模建造物の建設現場を体感した。（町田大祐）